

多様な人材受け入れ経営拡大

ライフスタイル・体力に応じた勤務体制

【香川】さぬき市の農人が集まり、地域の農地をまわって(松岡浩一代表理事)は、設立から18年目。多様な世代・経歴の

人が集まり、地域の農地を守っている。米麦からスタートして野菜を取り入れ、現在は水稲25畝、麦21畝、アスパラガス27畝、ブロッコリー8畝などで、法人へ任せられる農地が徐々に増えてきた。

香川・さぬき市 みろく



昨年には非農家出身の元会社員2人が新たに構成員となったほか、地域から子育て中の女性や元気な70歳前後の人などを従業員として採用。それぞれのライフスタイルや体力などに応じた勤務体制をとって、無理なく楽しく作業できる仕組みとした。また、働きやすい環境に配慮して休憩所やトイレなどを整備した。3年目になる20代の女性も担い、「もともと体を動かすことが好きだ」と話す。多様な人が集まるべく、田植え作業をする女性メンバー

「たので農作業は楽しい。今後はSNSを活用した活動の発信にも取り組むたい」と意欲的だ。農業委員も務める松岡代表は「地域の内外から働きたい人を受け入れ、いろいろな人の知恵やスキルを活かして、農地と地域を守っていきける組織として次世代へつないでいきたい」と話す。

「泉州みつば」を全国に

大阪エコ農産物認証受ける

【大阪】「正月の雑煮やひな祭りのお吸物など、季節ごとに重宝される泉州みつばの良さを知ってほしい」と話す阪上和隆さん(54)。JA大阪泉州みつば部会の会長で、貝塚市内のハウス約50坪で泉州みつばを生産している。泉州みつばは同市の特産。坂上会長は「ハウスの養液栽培は生育が早く、周年で生産可能なため、直接納入していたが、現在は地域の卸売業者を通じて納入し、月2回ほど献立に使用されている。坂上会長は「毎月の定例会や年2回の市場との出荷会議は情報収集や意見交換を行う勉強の場となっている。部会が経営能力や栽培技術を



3月8日、28日の「みつばの日」への出荷に備える坂上会長

同部会は昭和40年代に市内でミツバの養液栽培が普及し、生産者が増え設立された。かつて同部会では学校給食へミツバを直接納入していたが、現在は地域の卸売業者を通じて納入し、月2回ほど献立に使用されている。坂上会長は「毎月の定例会や年2回の市場との出荷会議は情報収集や意見交換を行う勉強の場となっている。部会が経営能力や栽培技術を

土づくりと益虫利用が要

香りと味の逸品イチゴ

広島・三次市 大前万寿美さん



【広島】三次市布野町でハウスイチゴ「さちのか」(11坪)を栽培している大前万寿美さん(63)は、写真には土づくりにこだわり、漢方資材や竹チップ、発酵肥料、乳酸菌を使い、できる限り農薬や化学肥料に頼らない安全安心な農業に取り組んでいる。

万寿美さんのハウスには、受粉を行うミツバチと害虫駆除のために放たれたカマキリがいる。これらの益虫が心地よく活動するためにハウスの一角にバンカープランツとして植物を植えている。人間はあくまで手助けという状態で農作物が持つ力を信じ、イチゴづくりに励んでいる。こうした環境で収穫したイチゴは香りが強く、甘みと酸味のバランスがとれた逸品で、同市の産直市「トレッタみよし」や道の駅「ゆめ

引く手あまたの酒米生産

地域農業の再生に力注ぐ

【鳥取】倉吉市で農業委員を務める数馬豊さんは、同市富海でJAS有機認証をはじめとする各種酒米約20畝の生産に家族で取り組んでいる。一時は日本酒需要低迷のあおりを受け契約栽培が打ち切られたこともあったが、「和食」がユネスコ無形文化遺産登録

元々はサラリーマンだったが、疲弊する地域農業を憂い、脱サラして父親の後を継ぎ就農。耕作放棄地が広がる農地を独力で再生し、閉鎖環境を活用して有機栽培に取り組んだ。



【福岡】2024年4月1日に町制施行60周年を迎えた遠賀町では、農業をもっと知ってもらおうと、町内の小学4年生から6年生の児童を対象に体験教室を開催。四季を感じながら作物を育てる難しさや収穫の喜びを自ら掘ったイモの味をかみしめた。今回の企画で将来を担う子どもたちが農業に少しでも興味・関心を持ってもらうよう期待されている。

法人経営の飛躍めざす

兵庫県農業法人協会が現地交流会

【兵庫】県農業法人協会(八木隆博会長)は1月16、17日、神戸市で現地交流会を開催した。近畿農政局の相本浩志局長とひょうご農林機構の寺尾俊弘理事長が来賓としてあいさつした。続いて、(株)神明ホールディングスの藤尾益雄代表取締役を参加者が共有した。また、石田課長をコメンテーターに参加者によるパネルディスカッションを実施し、「農業法人の経営が飛躍すること、兵庫の農業を守ることにつながる」との認識を参加者が共有した。

地域農業振興へ33のアイデア

女性委員と女性農業者が意見交換



楽しい雰囲気の中でアイデアを出し合い交流を深めた

【大分】県内の女性農業委員・農地利用最適化推進委員で構成するウーマンアグリネットおおい(竹尾奈美会長)は1月24日、女性農業者との意見交換会を佐伯市で初めて開催。会員と女性農業者合わせて12人が参加し、自身の活動内容や農業振興の課題などを話し合った。付せんを用いるMFA(会議ファシリテーター普及協会)メソッドの座談会形式で、「地域農業のために私たちにできることは」をテーマにアイデアを出し合った。参加型イベントの開催や「SNSを活用した情報発信」など33の自由なアイデアが出され、参加者による投票でアイデアランキングを決定した。豊後大野市の女性農業者は「楽しい意見交換だった。女性委員の活動やがんばりを知ることができた」と話した。竹尾会長は「会の活動を通して、市町村の枠を越えた情報交換と研鑽に励みたい」と発言。今回出たアイデアを会の運営の参考にするとともに、来年度以降も同様の研修会を実施することとしている。

大分ウーマンアグリネットおおい

町制施行60周年記念で四季感じながら児童が農業体験

福岡・遠賀町

【福岡】2024年4月1日に町制施行60周年を迎えた遠賀町では、農業をもっと知ってもらおうと、町内の小学4年生から6年生の児童を対象に体験教室を開催。四季を感じながら作物を育てる難しさや収穫の喜びを自ら掘ったイモの味をかみしめた。今回の企画で将来を担う子どもたちが農業に少しでも興味・関心を持ってもらうよう期待されている。

「参加型イベントの開催」や「SNSを活用した情報発信」など33の自由なアイデア

【大分】県内の女性農業委員・農地利用最適化推進委員で構成するウーマンアグリネットおおい(竹尾奈美会長)は1月24日、女性農業者との意見交換会を佐伯市で初めて開催。会員と女性農業者合わせて12人が参加し、自身の活動内容や農業振興の課題などを話し合った。付せんを用いるMFA(会議ファシリテーター普及協会)メソッドの座談会形式で、「地域農業のために私たちにできることは」をテーマにアイデアを出し合った。参加型イベントの開催や「SNSを活用した情報発信」など33の自由なアイデアが出され、参加者による投票でアイデアランキングを決定した。豊後大野市の女性農業者は「楽しい意見交換だった。女性委員の活動やがんばりを知ることができた」と話した。竹尾会長は「会の活動を通して、市町村の枠を越えた情報交換と研鑽に励みたい」と発言。今回出たアイデアを会の運営の参考にするとともに、来年度以降も同様の研修会を実施することとしている。

地方総合

各地の話題

愛知県 鳥インフル対策に69億円

【愛知】県内では、今年に入り常滑市や半田市などの13農場で、鳥インフルエングスの感染が確認されている。これを受けるため、県は防疫対策や経営支援に必要な緊急対策費用約69億円を補正予算として計上。鶏の殺処分や鶏舎の消毒費用のほか、卵の移動制限

鳥インフル対策に69億円

【愛知】県内では、今年に入り常滑市や半田市などの13農場で、鳥インフルエングスの感染が確認されている。これを受けるため、県は防疫対策や経営支援に必要な緊急対策費用約69億円を補正予算として計上。鶏の殺処分や鶏舎の消毒費用のほか、卵の移動制限